

## 中国における村上春樹文学の受容

### Acceptance of Haruki Murakami's Works in China

馮 英華  
FENG Yinghua

村上春樹の作品は、中国で年代末から現在に至るまでの間にほとんど中国語に翻訳され、「村上春樹ブーム」を引き起こした。その後も、とりわけ、中国の若者の間では「村上春樹熱」が続いている。たとえば、年に第回「中国作家富豪ランキング」の「外国人作家富豪ランキング」が『華西都市報』により発表されたが、村上春樹は過去年間に万元（約億円）の印税収入で、位にランクインした。翌年の第回ランキングでも、過去年間に万元（約9900万円）の印税収入で、同じく4位となっている。ブームのもう一つの例として、ピアニストの宋思衡は、2013年3月16日に北京音楽庁で『ノルウェイの森—村上春樹を探して宋思衡マルチメディア・ピアノ・コンサート』（中国語原題：『挪威的森林—寻找村上春树宋思衡多媒体钢琴音乐会』）というタイトルのコンサートを開催し、村上文学に登場するビートルズの歌やジャズを演奏した。村上文学は中国ではファッションのような流行になっている。

藤井省三は、中国語圏での村上ブームについて、「台湾を起点に香港→上海→北京と十年かけて時計回りで展開し、シンガポールにも伝わった村上ブームは、各地における高度経済成長と深い関わりがあります。新たに登場した中産階級が、経済成長の踊り場に差しかかると自らが棄ててきた過去をじっくりと回想し始めるのです」と指摘している。

1

本論では、中国大陸における村上春樹文学の受容状況について、翻訳の概観、研究の現状、一般読者の受容という三つの方面から分析する。

#### 一、中国における村上春樹文学翻訳の概観

村上春樹の作品は、世界40カ国近くで翻訳出版されている<sup>2</sup>。藤井省三によれば、中国語圏で村上春樹作品が最初に翻訳されたのは、1985年に台湾の雑誌『新書月刊』8月号

<sup>1</sup> 柴田元幸、沼野充義、藤井省三、四方田犬彦編『世界は村上春樹をどう読むか』文春文庫、2009年6月、p.4。

<sup>2</sup> 柴田元幸、沼野充義、藤井省三、四方田犬彦編「村上春樹 翻訳世界地図」『世界は村上春樹をどう読むか』文春文庫、2009年6月、p.28。

で頼明珠が村上小特集を組んで短編小説を紹介したときである。これは村上文学の世界最初の外国語訳でもある。翌年には中国の雑誌がこの小特集をそのまま借用して掲載したという。<sup>3</sup>ただし、藤井はその雑誌名を明言していない。1988年、『世界文学』6月号は水洛訳「貧乏な叔母さんの話」(『窮伯母的故事』)、黄鳳英訳「象の消滅」(『大象失踪』)を掲載した。<sup>4</sup>これは村上文学の中国大陸での最初の翻訳と見なされている。村上春樹の作品は、中国では、1989年から現在までの約25年間に、30点以上の作品が翻訳・出版されてきた。

中国で早くから翻訳され、ブームになった『ノルウェイの森』が初めて紹介されたのは、日本での刊行から2年後の1989年であった。当時暨南大学日本語系の教師をしていた林少華が翻訳を担当し、桂林の漓江出版社から刊行された。これは『ノルウェイの森』の中国語簡体字訳の最初のバージョンである。そして、1990年に北方文芸出版社により、鐘宏傑、馬述禎訳の『挪威的森林—告别处女世界』(日本語に直訳すれば『ノルウェイの森—処女の世界にさよなら』となる)が出版された。これは『ノルウェイの森』中国語簡体字訳のもう一つのバージョンであるが、林少華訳と比べると影響力はそれほど大きくはなかった。1992年に漓江出版社から『好风长吟』というタイトルで『風の歌を聴け』の中国語簡体字訳が刊行されたが、その表紙は通俗小説のイメージを強く感じさせる。

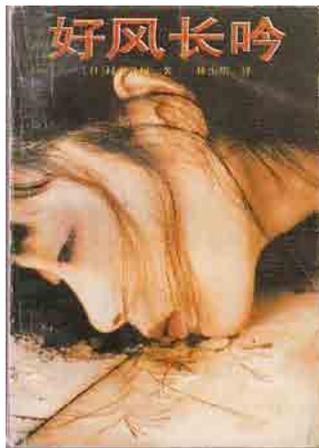


図1 『好风长吟』の表紙、林少華訳、漓江出版社、1992年

<sup>3</sup> 藤井省三「村上春樹チルドレン」『中国語圏文学史』東京大学出版会、2011年10月、p. 159。

<sup>4</sup> 水洛、黄鳳英訳「短篇小说两篇」『世界文学』(第6期)中国社科院外国文学研究所、1988年12月、pp. 45-81。

中国では、1991年6月に「中華人民共和国著作権法」が施行され、また1992年10月に中国は文学的および美術的著作物の保護に関する「ベルヌ条約」に加盟した。しかし、1989年の『ノルウェイの森』の中国語訳（簡体字版）には著作権に関する表示がないため、この最初の翻訳単行本は海賊版の可能性が高い。90年代に入って、著作権法の整備が進む中で、村上文学の翻訳も盛んに展開された。

1996年から、漓江出版社から『村上春樹精品集』というシリーズが出され、『ノルウェイの森』（『挪威的森林』1996年）、『羊をめぐる冒険』（『寻羊历险记』1997年）、『ダンス・ダンス・ダンス』（『舞！舞！舞！』1996年）、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（『世界尽头和冷酷仙境』1996年）、短編小説集『象の消滅』（『象的失踪』1997年）が出版された。この『精品集』の翻訳はすべて林少華によるものである。この新装版の装幀や表紙のデザインは、以前の版よりも品質が明らかに良くなってきている。この『精品集』により、村上文学の中国語訳における林少華の重要な位置が確立され、中国における本格的な村上ブームが始まった。また、1997年には訳林出版社から林少華訳『ねじまき鳥クロニクル』（『奇鳥行状录』）が刊行された。その後も『ねじまき鳥クロニクル』は版を重ねることになるが、ここでは各版の表紙を例として取り上げる。



图 2 林少華訳『奇鳥行状录』（当代外国流行小说名篇丛书）、訳林出版社、1997年



図 3 林少華訳『奇鳥行状録』上海译文出版社、2002年11月



図 4 林少華訳『奇鳥行状録』上海译文出版社、2009年8月

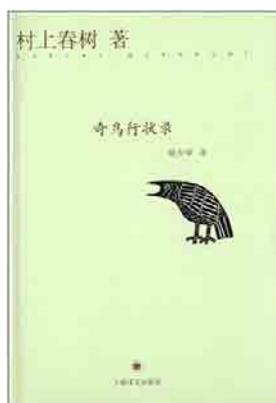


図 5 林少華訳『奇鳥行状録』上海译文出版社、2014年4月

表紙の変遷から村上文学受容のイメージの変化が窺える。1997年版の表紙には小さい「雀」、黒猫、着物を着る日本人男性が配置され、暗い背景に若い女性の大きな笑顔が見える。この作品は、1984年の東京の、着物など着そうにもない「僕」が主人公であるにもかかわらず、着物を着た一昔前の男性像が描かれているのは、当時の中国における日

本人イメージを反映したものと言えよう。また、この表紙の絵は通俗恋愛小説、或いはミステリ小説のような印象を読者に与える。2001年に、外国文学の輸入を主に取り扱う大手出版社である上海訳文出版社は、これまでに刊行された中国語訳の『挪威的森林』（『ノルウェイの森』）の各版が多く読者の間に人気があることを察知し、村上春樹と作品の翻訳出版に関して独占契約を結んだ。その後、上海訳文出版社により、『村上春樹文集』という形で村上作品は途切れることなく刊行された。長い間、林少華が村上の作品を独占的に翻訳し、合計32の作品を出版してきたが、2010年の『1Q84』から施小煒が翻訳者の競争に加わるようになった。

2006年の時点で、中国における村上文学の出版状況について、林少華は次のように述べている。

上海訳文出版社の場合、出版された版だけ見ても、『ノルウェイの森』が2001年以来、23刷、百万部を越えた。『海辺のカフカ』はこの三年間に29万部。最新作『アフター・ダーク』は一年足らずの間に6刷・13万部。上海訳文出版社は、これまで31作、総部数250万部以上を刊行した。2001年以前の漓江出版社による刊行部数を加えれば、総部数はすでに300万部を越えた。これは、中国の出版業界では奇跡的な印刷部数と言える。村上春樹と彼の『ノルウェイの森』は、すでにある種の文化的符号、ある種の流行、ある種の品位と格調となったと言っても差し支えない。<sup>5</sup>

上の引用は2006年の時点の記述である。それから8年が経過した2014年現在、村上作品の中国語訳は各出版社により、新作の刊行はもちろん、再版も重ねられている。ゆえに、現在までの村上文学の総販売部数を正確に把握するのは、簡単ではない。特に『1Q84』の著作権は、中国本土で激しい競争の末、2009年に100万ドルで落札され、2010年に南海出版公司から出版されることに決まった。『1Q84 BOOK1』中国語簡体字版の初版の発行部数は120万部で、200万部販売が目標とされた。『1Q84 BOOK2』の初刷は60万部だと

---

<sup>5</sup> 林少華「村上春樹在中国—全球化和本土化进程中的村上春樹」『外国文学评论』（2006年03期）、中国社会科学院外国文学研究所、2006年8月、P. 39。馮英華訳。原文：「『挪威的森林』仅在上海译文出版社自2001年以来便已印行23次，逾百万册；『海边的卡夫卡』近三年来已印行29万册；而最新作品『天黑以后』不到一年也已印行六次达13万册。上海迄今刊行村上作品共31种，印数超过250万册。若加上2001年前漓江出版社的印行册数，总印数已逾300万册。这在中国出版界堪称传奇性印数。不妨说，村上春树和他的『挪威的森林』已成为一种文化符号，一种时髦，一种品位和格调。」

報道された。2011年に発行された『1Q84 BOOK3』も売れ行きが良かった。本章の冒頭で挙げたに、村上春樹は『1Q84』の売り上げの勢いで中国での「外国人作家富豪ランキング」の上位にランクインした。続いて、2013年には南海出版公司から施小煒訳『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（『没有色彩的多崎作』、2013年10月）が刊行された。

2012年から、『ノルウェイの森』、『海辺のカフカ』などの代表的な長編10作品の中国語版が全面的に改訂され、上海訳文出版社から刊行された。今回の全面改訂は、上海訳文出版社が林少華に特に依頼して実現したという。訳文の語彙や文章などを改めて添削し、誤訳の修正、訳し漏れの加筆をし、より読みやすく、時代の変化に合わせた翻訳作品となるようグレードアップさせたと言われる。

2014年10月に、林少華は、自らのブログ上で、上海訳文出版社が全十巻の村上小説のハードカバー版を刊行する予定であることを記した。以前の訳文を改めて校閲することをも依頼されたという。<sup>6</sup> 中国で今後も村上ブームはまだまだ続く見込みである。

新聞や雑誌による村上春樹作品の紹介は80年代の末から始まったが、2000年以後、村上作品の社会性にも関心が向けられるようになってきた。2006年には、中国の週刊紙『南方週末』に掲載された「〈文化〉村上春樹：私は卵側に立っている」<sup>7</sup>というインタビュー記事が注目を集めた。

---

<sup>6</sup> 林少華「瓜田小屋和北外女生」新浪ブログ：<http://www.weibo.com/p/23041848f36ce00102v3sf> 2014年10月20日確認。原文：「再单调平庸的生活也偶有惊喜。近半年的惊喜之一，无疑是上海译文出版社要出十卷拙译村上小说精装本，并嘱我重新校阅一遍。最先校阅的，自然是『挪威的森林』。」

<sup>7</sup> 王寅「〈文化〉村上春樹：我站在鸡蛋一边」『南方週末』2006年9月7日1178期、<http://www.southcn.com/weekend/culture/200609070030.htm>、2014年10月20日確認。馮英華訳。「小資」は日本語には対応する適切な訳語がない。その意味については注22を参照されたい。原文：「记者：在中国，你被定位为“小资情调”的畅销作家，你自己希望如何被定位？村上：我只是按自己喜欢的方式写自己喜欢的故事罢了，并不是抱着什么目的去写的。不过，基本上我非常重视和尊重个人的自由。就像是有一堵结实的高墙，如果有撞上高墙而破碎的鸡蛋，我往往是站在鸡蛋一边的。记者：你从阪神地震开始关注日本社会问题，随后又采访沙林毒气事件等。从『神的孩子都在跳舞』到『海边的卡夫卡』，故事的主角，个人的处境也开始跟社会议题息息相关。你如何解读和看待自己在创作历程方面的转变？村上：我以多种写法，描写多种人物。读者从中读到什么，看到什么，是读者各自的问题。我当然有我自己的世界观、历史观和政治见解等，但是这些有时跟我的故事有直接的结合点，有时却并没有。所谓故事，应该突破所有制约，完全自由，这是我强烈的信念。讲故事和小猫散步是一样的，去喜欢的地方，做喜欢的事就好。」

記者：中国では、「小資情調」のベストセラー作家と見なされていますが、ご自身はどう思われますか。

村上：私はただ自分の好みで好きな物語を書いているにすぎません。何かの目的を持って書くではありません。高く、堅い壁と、それに当たって砕ける卵があれば、私は常に卵の側に立っています。

記者：村上さんは阪神・淡路大震災から、日本の社会問題に関心を寄せ始めて、その後地下鉄サリン事件についてインタビューしました。『神の子どもたちはみな踊る』から『海辺のカフカ』に至って、物語の主役の個人的な体験も、社会と密接に関わるようになってきました。このようなご自分の作風の変化をどうみていますか。

村上：私は多様な手法で様々な人物を描いています。読者がそこからなにを読み取るか、なにを見るか、それは読者自身に任されています。もちろん私にも私なりの世界観、歴史観と政治認識があるけれど、時には直接に物語と接点があったりもするし、なかったりもします。物語は、すべての制限を破る、完全に自由なものですこれは私の強烈な信念です。物語を語ることは小猫の散歩と同じで、好きなところに行って、好きなことをすればよいと思います。

上のインタビューからわかるように、『南方週末』という週刊紙は、作者の方向転換や作者の発言に鋭敏に対応し、時代の変化とともに変わっていく村上文学を中国の読者に紹介している。

## 二、中国における村上春樹文学研究—視点と成果

本論では、中国における村上春樹文学研究の全体像と変化を呈示し、中国の研究者が村上春樹の文学をいかに解読しているのか、とりわけ、本論文が注目する「記憶」の問題をいかに受け止めているのかについて考察する。

中国の日本文学研究者・田建新は「中国の村上春樹—“新鮮血液”」という研究論文において、次のように語っている。

最近の中国では西側最先端の文学を学ぶ一環として若い作家や評論家たちが、日本の現代作家とその作品の研究に力を注いでいる。それは政府政策が緩んだからこそ可

能になったことで、一方、“日本を通じて世界を見る”というこれまで歩いてきた道筋からも日本現代文学を研究することによって何が今の中国の文壇に役に立つかを探求できるからである。頻繁な翻訳・評論のなか、毎年のように村上春樹の作品と評論が紹介され、それによって、“恋愛小説”“青春小説”“都市小説”などといった概念が中国の文壇にも吹き込まれた。その反響としては、これまでの「傷痕」文学や「現実批判」文学に飽きた読者側にも、また中国当代文学の新しい方向を模索する作者側にも“新鮮血液”をもたらしたとともに、中国の読者たちの村上春樹ブームによる日本現代文学に対する興味が日増しに高まっていることがあげられよう。<sup>8</sup>

この引用からもわかるように、中国の文学研究者は、村上春樹文学の中国文壇への影響を早くから敏感に意識し、高い関心を示していた。中国における村上文学研究のうち、書籍として出版されたものには、主として以下のものがある。

岑朗天『村上春樹与后虚无年代』（新星出版社、2006年）

林少华『村上春樹和他的作品』（宁夏人民出版社、2005年）

雷世文編『相约挪威的森林—村上春樹的世界』（华夏出版社、2005年）

その他、翻訳書としては以下のものがある。

小森陽一著、秦剛訳『村上春樹論—精読『海边的卡夫卡』』（新星出版社、2007年、原題：小森陽一『村上春樹論—『海辺のカフカ』を精読する』平凡社、2006年5月）

杰・鲁宾著、馮濤訳『倾听村上春樹—村上春樹的艺术世界』（上海译文出版社、2006年、原題：Jay Rubin, *Haruki Murakami and the Music of Words*, Harvill Press, 2002. 日本語訳：ジェイ・ルービン著、畔柳和代訳『ハルキ・ムラカミと言葉の音楽』新潮社、2006年9月）

黒古一夫著、秦剛・王海藍訳『村上春樹：转换中的迷失』（中国广播电视出版社、2008年10月、原題：黒古一夫『村上春樹—「喪失」の物語から「轉換」の物語へ』勉誠出版、2007年10月）

内田樹著、楊偉・蔣藏訳『当心村上春樹』（重庆出版社、2009年、原題：内田樹『村上春樹にご用心』アルテスパブリッシング、2007年10月）

侯为・魏大海訳『村上春樹〈1Q84〉纵横谈』（山东文艺出版社、2012年6月、原題：

---

<sup>8</sup> 田建新「中国の村上春樹—“新鮮血液”」『國文學：解釈と教材の研究』第40巻第4号、1995年3月号、學燈社、p. 113。

河出書房新社編集部編『村上春樹『1Q84』をどう読むか』河出書房新社、2009年7月)

2000年以後、中国では、日本の村上研究の翻訳書がしだいに増えてきた。その背景には、研究界での日中の交流が徐々に盛んになってきたという事情がある。

中国における村上文学の研究論文にも変遷が見られる。李徳純が1989年に発表した『物欲世界中的異化—日本“都市文学”剖析』（『世界博覧』1989年第4期）は、現時点で確認できる限りでは、中国における村上文学研究の最初の学術論文である。1994年の王向遠『日本后现代主义与村上春树』（『北京师范大学学报』社会科学版 第5期）は、ポストモダンの視点から村上文学を解読する論文である。村上ブームの隆興と共に、2000年以後、村上文学に関する論文の数も大幅に増加してきた。張敏生は、この30年間の日中における村上研究を総括した論文『近三十余年日本、中国内地村上春树研究述评』をまとめている。<sup>9</sup>その論述を参照しつつ、中国語研究論文を調査した結果によれば、中国における村上文学研究は、主に以下の観点からなされていると把握できる。すなわち、ポストモダン、文体、フェミニズム批評、比較文学、物語批評、村上文学が起こした社会現象である。博士論文も何篇か書かれている。例えば、李晓娜の博士論文『村上春树与美国现代文学』（吉林大学、2013年）は、比較文学研究の観点から、モダンアメリカ文学の精神と村上文学の影響関係を論じるものである。杨炳菁の博士論文『后现代语境中的村上春树』（吉林大学、2009年）は、ポストモダンの文脈のもとで、村上文学の思想面と芸術面のポストモダニックな特徴を分析するものである。その他、雑誌に掲載された論文や修士論文の本数も年々増えている。特に、村上文学が起こした社会現象についての論述が数多く見られる。具体的には、中国の読者層、読者が村上文学を好む原因を分析する論文が数多く存在する。記憶研究という観点からの論文は、2009年以降になってようやく登場してきた。

翻訳者による論述も見てみよう。林少華は長い間村上文学の翻訳を独占し、作品について論文や批評も多く書いており、読者の受容に少なからず影響を与えてきたと言える。2002年に上海訳文出版社により刊行された『村上春樹作品集 奇鳥行状録』（『ねじまき鳥クロニクル』）には、訳者の林少華が書いた『村上春樹作品集』の「総序 村上春樹の小説の世界と芸術の魅力」<sup>10</sup>が掲載されている。この2002年版序文は、日本における村上

<sup>9</sup> 張敏生「近三十余年日本、中国内地村上春树研究述评」『长江师范学院学报』第27卷第4期、2011年7月、pp. 82-88。

<sup>10</sup> 林少華「总序 村上春树的小说世界及其艺术魅力」『奇鳥行状録』上海译文出版社、2002年、馮英華訳。

文学の位置、そして世界各地での村上ブームを全体的に紹介するものである。また、林少華は『奇鳥行状録』（『ねじまき鳥クロニクル』）2009年版の訳者序文「暴力を問い詰めて—〈小資〉から闘士へ」で、『ねじまき鳥クロニクル』のモチーフ、創作の経緯についてかなり詳しく紹介し、村上の作風の転換を高く評価している。

もしももっとも敬服する村上作品がどれかと聞かれたら、私はまったくためらわずに『ねじまき鳥クロニクル』と答える。（中略）もっと重要なのは、この作品の中で、村上は完全に寂しくて心暖まる庭園を出て、変幻する広い戦場に突入し、孤独な「プチブル」や都市隠遁者から孤高の闘士になったことである。<sup>11</sup>

暴力はこの長編小説の中心点である。二つの線がこの中心点で交差している。縦線は歴史線（時間軸）、あるいは年代記（クロニクル）であり、その主軸はノモンハン戦争である。横線は現実線、現在進行中の時間であり、その主軸は一人の男が行方不明の妻をあちこち探し回ることである。二つの線とも暴力に満ちている。あるいは、暴力という中心点の延長ともいえる。暴力を十分に表現する際、二つのラインは同時に同じ標的を射る：“Violence, the key to Japan”（暴力、日本を開くための鍵）！これは村上が語った言葉であり、前に引用したジェイ・ルービンの『ハルキ・ムラカミと言葉の音楽』からの引用である。間違いなくそれはこの偉大なる作品のテーマである。<sup>12</sup>

この序文は2002年版の再録ではなく、2009年版のために林少華が改めて執筆したものである。この序文で、林少華は、読者に『ねじまき鳥クロニクル』におけるクロニクル

---

<sup>11</sup> 林少華「译者序：追问暴力：从“小资”到斗士」『奇鳥行状録』、上海译文出版社、2009年。馮英華訳。原文：「如果问我村上作品中最佩服哪一部，我会毫不犹豫地举出『奇鳥行状録』（直译应为“拧发条鸟年代记（编年史）”，以下简称『鸟』）。这是一部真正的鸿篇巨制，日文为上中下厚厚三大卷，译成中文都有五十万言，达650页。时间跨越半个世纪，空间远至蒙古沙漠和西伯利亚荒原。出场人物众多，纷至沓来而各具面目；情节多头推进，山重水复，雾锁云笼。更重要的是，在这部作品中，村上完全走出寂寞而温馨的心灵花园，开始闯入波谲云诡的广阔沙场，由孤独的“小资”或都市隐居者成长为孤高的斗士。在这点上，我很赞同我几次提及的哈佛大学教授杰·鲁宾（Jay Rubin）的见解：『鸟』“很明显是村上创作的转折点，也许是他创作生涯中最伟大的作品。”」

<sup>12</sup> 林少華「译者序：追问暴力：从“小资”到斗士」『奇鳥行状録』、上海译文出版社、2009年。原文：「暴力是这部长篇小说的中心点。有两条线交叉穿过这个中心点：纵线是历史线（“时间纵轴”）亦即“年代纪”（chronicle），其主軸是诺门坎（又译“诺门罕”）战役；横线是现实线，现在进行时，主軸是一个男人到处寻找老婆，寻找下落不明的老婆。两条线都缀满暴力，或者说都是暴力这个中心点的延伸。在充分演示暴力的过程中，两条线共同指向一个靶心：“Violence, the key to Japan”（暴力，就是打开日本的钥匙）！这是村上明确说过的原话，引自前面提过的杰·鲁宾的专著『倾听村上春树一村上春树的艺术世界』。毋庸置疑此乃村上这部伟大作品的主题。」

や暴力の意味についてのヒントを与え、創作時間が四年半もかかったこの作品の重要性を紹介している。具体的な販売部数は把握できないが、『ノルウェイの森』と比べ、中国では『ねじまき鳥クロニクル』の売れ行きがそれほど多くなかったのは周知の事実である。中国の読者がこの難解な作品を解読するのに助けになるようにと、林少華は力を入れたと言える。

暴力についてのみならず、林少華は、「闘士としての村上春樹—東アジアで十分に重要視されていない村上文学の東アジアの視点」において、東アジアの視点から、戦う村上春樹の面を析出し、次のように指摘している。

村上文学の中で最も東アジアに関わっている歴史的要素が、東アジアではこれに正比例する反響を引き起こしているわけではない点は興味深い。(下線は馮英華、以下同様)

そして最後に、村上が描く暴力について、次のように結論づけている。

つまり、村上春樹が追及し非難する対象は、戦争という形式で現れる「国家暴力」に限定されず、個々の人の内部に潜む残忍さや暴力をも含め、その結果外部から内部へと深い反省の念が芽生えてくるということを言っているのだ。そして、これはある種の大きな愛情から生まれるものだと考えてもかまわないだろう。この日本人作家は、恐らく次のようなことを考えているのだ—このような反省の念を持ってこそ、日本は真の意味でアジアと和解ができ、アジア全体が調和するし、日本の明るい未来が望めるのだ。<sup>13</sup>

この言い方からわかるように、林少華は村上春樹の翻訳作業を通じて、村上文学に潜んでいる暴力や戦争の問題を真剣に考えており、社会関心に富んだ村上文学像を中国の読者に提示しているのである。

2000年以後、中国での村上文学についての研究は、爆発的に量が増えてきた。2014年

---

<sup>13</sup> 林少華著、明田川聡士訳「闘士としての村上春樹—東アジアで十分に重要視されていない村上文学の東アジアの視点」、藤井省三編『東アジアが読む村上春樹：東京大学文学部中国文学科国際共同研究』若草書房、2009年6月、p. 363。

9月29日の時点で、中国の論文検索サイトCNKIで、「村上春樹」をキーワードとして検索した結果によれば、2000年以降に研究誌に発表された論文の数は784本に及んでおり、修士論文と博士論文を合せて206本、新聞に掲載された記事は464本である。それとは対照的に、1989年から1999年までの間、村上文学に関する論文の数は20本にも満たない。また2000年以前の中国での村上文学についての研究論文では、戦争や植民地の記憶の問題は重要視されていなかったが、近年では『ねじまき鳥クロニクル』における「記憶」の問題が意識され始めており、最近3、4年間に、関係する論文が少しずつ現れてきた。本研究の視点と多少関連する中国語博士論文には、主として尚一鷗『村上春樹小説芸術研究』（博士論文、東北师范大学、2009年）と楊炳菁『后现代语境中的村上春樹』（吉林大学、2009年）の2本がある。次に、その受容の様相、とりわけ歴史記述が見られる作品の評論に注目したい。

多くの中国人研究者は、村上文学における「中国」や戦争の記憶に共鳴し、村上文学における歴史認識を高く評価している。たとえば、符夏鷺は『論村上春樹的〈奇鳥行状録〉—対日本暴力及侵華战争的反思』（『ねじまき鳥クロニクル』論—日本による暴力的な侵華戦争に対するリフレクション）で、「村上春樹は『ねじまき鳥クロニクル』という傑作を通して、日本が起こした侵略戦争の暴力的な罪悪を暴露し、現在の日本社会における暴力との関連性を探索し、戦争責任に対する深い思考と追求を明らかに示した。『ねじまき鳥クロニクル』は村上春樹の文学創作の上での一つの重要な里程碑であり、村上春樹がリベラルな作家から、歴史と社会に対する高い責任感を持つ勇士に変身したことを意味する。」<sup>14</sup>と『ねじまき鳥クロニクル』における歴史認識に共鳴し、高く評価した。

また、李国磊は『中国行きのスロウ・ボート』、『羊をめぐる冒険』、『アンダーグラウンド』、『ねじまき鳥クロニクル』を対象に、作品中における「中国」と歴史の記述に焦点を当て、次のように分析する。「村上春樹は現在の日本への問いかけを通して、日本の現状と将来への心配を表している。これも彼の歴史への追求のもう一つの意味である。〈中国行きのスロウ・ボート〉から〈僕〉の原罪意識を引き出し、このスロウ・ボー

---

<sup>14</sup> 符夏鷺「論村上春樹的『奇鳥行状録』—対日本暴力及侵華战争的反思」『林区教学』哈尔滨理工大学、2012年第12期总第189期、p. 58。引用文は馮英華訳。原文：「村上春樹通过『奇鳥行状録』这部长篇巨著，揭露了日本发动侵華战争的暴力罪行，探索了当今日本暴力的传承脉络，明示出对战争责任的深层思考和追求。『奇鳥行状録』是村上春樹文学创作上的一个重要里程碑，标志着村上春樹由一名自由主义作家转变为具有高度历史责任感和社会责任感的勇士。」

トに乗ったからこそ、村上は、あの遠ざかる昔の歴史をふり返り、〈編年史〉（クロニクル）のようにあの歴史の罪の根源を追求し、日本に隠れている暴力の傾向と体制を批判し、罪悪の意志に直面することができた。これは村上自身が触れた中国の要素に起因し、中国と中国人に対する罪悪感と〈原罪〉意識にも起因するであろう<sup>15</sup>と論じている。

謝端平は、「村上春樹の軽率」『文学報』（2014年5月8日、第023版、新批評）という文章において、次のように書いた。

私は日本の中央大学教授・宇佐美毅の見方に賛成します。村上春樹の小説の最大の欠陥は強烈なテーマと目的に欠けているのです。『海辺のカフカ』では、最初から最後まで父親の罪を明らかにしていない。父親の姿は曖昧模糊として、確定していない。カフカは無意識の中で、父親を殺したあと、母親を誘惑して、ずばりと「佐伯さん、寝てもいい？」と尋ねます。（中略）「二重の意味」で不倫の物語を作り出しているのです。<sup>16</sup>

劉研は、『ねじまき鳥クロニクル』について、次のように論じている。

### 【原文】

这种个体记忆与集体记忆的相互指涉,既透射出战争记忆在当代日本自我身份认同中的重要性,同时也呈现了民族与战争历史情感记忆方面的复杂性。村上虽然敏锐地提出了战争记忆对日本自身的国家历史在身份认同上的重要性,但又很难说村上就此构建出了批判性的记忆意识。因此,从村上的创作中,我们可以看到日本在战争历史记忆方面所呈现出的复杂性,以及在当代的集体认同中仍然潜藏着的某种危险性。与之相应,作

---

<sup>15</sup> 李国磊「涉舟远行—论村上春树作品中的中国因素与历史追究意识」『德州学院学报』第28卷第3期、2012年6月、p. 79。引用文は馮英華訳。原文：「村上借对当下日本的追问,表达了对于日本现状与未来走向的担忧。这也是他进行历史追究的另一层意义之所在。“去中国的小船”引出了“我”的“原罪”意识,正是乘着这条小船,村上追溯了过往那段似曾遥远的历史,“编年史”似地追究着那段历史的罪恶根源,针砭深藏于日本整个国家的暴力倾向与体制,直面仍大行其道的罪恶意志,我想这一切在很大程度上源于村上自身和他所触及到的中国因素,来源于他对中国和中国人怀有的愧疚与“原罪”意识。」

<sup>16</sup> 谢端平「村上春樹の軽率」『文学報』2014年5月8日、第023版、新批評。引用は馮英華訳。原文：「我很认同日本中央大学教授宇佐美毅的观点,村上春樹小说最大的缺陷是缺乏强烈的主题及目的性。『海边的卡夫卡』自始至终没有交代父亲的罪孽,父亲的形象暧昧、模糊、不确定。卡夫卡在无意识中杀了父亲后,一步步勾引母亲,他单刀直入地说:“佐伯女士,和我睡觉好吗?”佐伯答:“即使我在你的假说中是你的母亲?”卡夫卡说:“在我眼里,一切都处于移动之中,一切都具有双重意味。”他借模糊的“双重意味”,成就了一段乱伦故事。」

为受害者的中国民众，在很大程度上沉浸于对于战争责任的追究和情感表达，中国知识界则将更多精力投入于对战争历史的肤浅表态之中，显然也缺乏对战争记忆的深入发掘。总之，怎样让战争记忆，成为思考中日两国现实问题和建构当代思想的有效资源还有待时日。<sup>17</sup>

#### 【訳文】

こうした個人的記憶と集合的記憶の相互関係は、戦争の記憶が現代日本におけるアイデンティティーに対して重要性を有することを呈するとともに、民族と戦争・歴史への感情記憶の複雑性を表している。村上は戦争の記憶がアイデンティティーに対して重要性を有していることを主張しているが、記憶に対する批判的な意識を構築したとは言いがたい。したがって、我々は日本が戦争の歴史記憶で表した複雑性、及びアイデンティティーに隠れているある種の危険性を認識することができる。それと対照的に、中国では、民衆は被害者としての立場からの戦争責任追及や感情表現にばかり集中し、インテリの多くは、ただ表面的に戦争の歴史についての立場を表明するだけという傾向があり、戦争の記憶への深い探求が足りない。

劉研の論文では、「戦争の記憶がアイデンティティーに対して重要性を有していることを主張」するという考察を、多くの頁を費やして肯定的に論じているが、結論のところで、補足として、「記憶に対する批判的な意識を構築したとは言いがたい」と指摘しており、それと同時に中国側の研究者の表面的な立場の表明という傾向を批判的に見ている。

尚一鷗は大岡昇平の『野火』に言及しながら、『ねじまき鳥クロニクル』の限界性を指摘している。

#### 【原文】

或许山本一行4人在哈拉哈河畔的出现，可以理解为日本挑起事端，导致战争发生的一种并不明确的交代。无论是就细节表现，还是与题旨关联的意义而言，人们都找不到丝毫的理由认为，『发条鸟年代记』的活扒人皮比大冈升平的『野火』中人吃人的残忍格调更高。原因就在于这两部作品所反映的都是战争带给日本军人或者说日本人的伤害。

<sup>17</sup> 劉研「记忆的编年史·村上春树『奇鸟行状录』的叙事结构论」『东疆学刊』第27卷第1期、2010年1月、pp. 38-44。

村上的发条鸟最多只是飞抵了『野火』中的菲律宾的山谷，并未显示出超越的身姿。<sup>18</sup>

### 【訳文】

山本らがハルハ河の辺りに現れたことは、日本側が戦争を起こしたことを暗示しているかもしれない。細部の表現にせよ、主旨との関連にせよ、『ねじまき鳥クロニクル』に見られる皮剥ぎの場面は、大岡昇平の『野火』に見られる人肉を食う場面の残忍性より格調が高いとは考えられない。その理由を考えると、二作品とも戦争が日本軍人あるいは日本人に与える被害を表した点は共通しているが、村上の『ねじまき鳥クロニクル』はせいぜい『野火』の舞台となったフィリピンの谷に飛びつこうとしたが、それを越える姿を見せることはできなかった、という点にあるだろう。

中国の研究者のなかではあまり見られない厳しい批判である。「格調が高いと考えられない」というのは、個人的な感情の込められた論じ方である。「日本人に与える被害を表した」というのは、中国人への傷害（身体の傷害のみではなく）を充分には表していないということを意味するのであろう。中国の研究者には、村上文学における戦争記憶の描き方に共鳴する人が多いが、上記のように、鋭く批判する声もある。その批判の声には、学問的批判のみではなく、複雑な民族感情も絡んでいると言える。

### 三、一般読者が見た村上春樹文学

村上文学は中国では多くの読者に愛読されている。王海藍<sup>19</sup>は中国の3000人の学生を対象として行ったアンケート調査の結果を分析して、彼らが村上作品から「孤独感と喪失感」及び「性描写」、「デタッチメント」を受け取っていることを明らかにしたが、『ねじまき鳥クロニクル』については言及していない。このアンケート結果によると、『ノルウェイの森』を読んだことのある人数は1325人で、圧倒的な多数を占めている。第二位

<sup>18</sup> 尚一鷗「村上春樹的偽滿題材創作与历史诉求」『国外社会科学』(Social Sciences Abroad) 中国社会科学院文献情報中心、2010年7月、p. 61。

<sup>19</sup> 王海藍「中国における「村上春樹熱」とは何であったのか—2008年・3000人の中国人学生への調査から」『図書館情報メディア研究』第6巻第2号、2009年3月、pp. 51-61。王海藍は2008年5月から6月までの1ヶ月間に、北京・長沙・西安・包頭（内モンゴル）など中国大陸の11都市にある22校の大学においてアンケート調査を行った。有効回答者2618人のうち、2365名、すなわち90%が「村上春樹の名前を聞いたことがある」と答え、1475名、すなわち56%が「村上春樹の作品を読んだことがある」と答えた。2005年のある調査によれば、中国の5つの大学の346名の大学生のうち、村上春樹を知っている者は92%、作品を読んだことがある者は66%であった。

から第四位までは、『海辺のカフカ』432人、『風の歌を聴け』368人、『ダンス・ダンス・ダンス』301人である。また、原作のコピーや、インターネットからのダウンロードで読んだ人数は254人もいる。

村上文学の流行はインターネットの普及と深く関わっている。2000年以後のインターネットの急速な拡大は、村上ブームを促進したと言える。中国の若者にとって、情報収集の主な媒体は、もはや伝統的なメディアであるテレビや新聞ではなく、インターネットとなっている。実際に日常的にプロキシサーバを通してYoutubeやFacebookを利用している若者も少なくない。中国の読者たちは掲示板で意見を交わしたり、ブログで感想を書いたり、ソーシャルネットワーキングサービスのグループで検討したりしている。バーチャルの世界といえども、現実世界と深く繋がり、影響し合っている。したがって、一般読者の受容を考察する場合、インターネットは無限の1次資料を提供してくれる。ネット上の評論や感想は莫大な数に及んでいるが、ここでその特徴的で代表的な評論をだけ取り出して分析する。

本論では、一般読者の受容を有効に把握するために、「パーソナルメディア」とも言われる「新浪微博」のコメントを対象として調査を行う。『ねじまき鳥クロニクル』などの作品の読み方には若者の特徴的な意識が見られるので、本研究では一般読者がなぜこの作品に充分注目しなかったのか、そして読んだ後のイメージはどのようなものなのかを検討する。

村上文学が中国で流行した原因を探求するためには、現代中国語特有の新語である「小資」を抜きにしては語れない。陸揚は、「小資」を定義して「まず、生活の品位と文化の情趣。次に、ロマンへの憧憬、これは都市化へのロマンである。最後に、〈小資〉はある種の情調として、ある種の境地として、文化の品位を体現する以上、ひいては金銭と関係がなくても、中産階級、大ブルジョアジーから、一般の百姓まで、全部含まれるわけである」<sup>20</sup>と、三つの特徴を説明している。2000年以後、中国大陸では都市化が進み、経済発展が急速に進むなかで、資本主義の消費文化はグローバル化の一部となった。香港・台湾では1980～90年代に村上ブームが起こったのに比べ、中国大陸でのブームは遅

---

<sup>20</sup> 陆扬『大众文化理论』复旦大学出版社、2008年、p. 123、馮英華訳。原文：「首先是生活的品味和文化的情趣；其次是向往浪漫，这是一种都市化的浪漫；最后既然是一种情调，一种一意境，体现的是文化品味，进而也可以与金钱无关，上则中资、大资，下则平头百姓，都可以包括进来。」

れたが、2000年以後、村上文学を広く受け入れる社会環境がだんだん整えられてきた。社会階級の再構成が急速に進み、〈小資文化〉という中国特有の文化現象が現れてくる。村上文学の高度資本主義の消費文化としての特徴は、この時期の中国社会の需要を満たすものであった。村上文学における登場人物たちは、一所懸命に働かなくても普通に生活できて、ジャズやロックを聴いたり、洋食を食べたり、感傷的なムードに沈んだりする。中国では、特に学生たちと新興ホワイトカラー階級がこのような描写に共鳴した。都市部の人々にとって、生活の上では物質的余裕が少しずつ出てくるとともに、モダン都市＝東京への憧れが生じており、また、精神面では村上文学における「喪失感」にも違和感を持たなくなっている。中国の読者は、村上春樹文学における、60年代の学生闘争に対する挫折感や喪失感を充分には理解できない。受容側が村上文学の中でもっとも関心を持つのは、資本主義消費文化のライフスタイルやムードである。



図 6 「村上春樹」を店名とする深圳市の郊外にあるパン屋、

<http://www.narinari.com/Nd/20110315128.html>、2014年9月30日確認

このようななかで、村上春樹文学を一般読者に紹介するガイドブックも出てきた。稲草人編著『遇见 100%的村上春樹』（当代世界出版社、2001年）は、村上作品に登場するロックやジャズの音楽史を遡ったり、ビールやパスタを紹介したり、「村上春樹式」のライフスタイルを推賞したりする、村上ファンの関心を引く「事典」のような本である。苏静、江江編著『嗨，村上春樹』（朝华出版社、2005年）は、村上春樹作品に対する感想をまとめたエッセー集である。

翻訳者の林少華は、中国の村上ブームの原因について、自らの体験や考察をもとに、読者からの手紙に書かれた感想や見方を加えた上で、次のように指摘している。

中国人が日本の作家の作品を読み始めて最初に感じるのは、いま読んでいるのは他

人のことであり、日本人のことであり、つまり自分とは無関係の人間や事柄について読んでいるのだ、ということだ。しかし村上作品を読むと、自分のことを読んでいると感じ、自分の精神世界と心の天地の中を遊び回って、ついに自分自身を見つけたと感じるのだ。

一言で言えば、村上文学は、中国の都市に住む青年男女の心の共鳴を引き起こした。これがまさに、村上春樹の小説が中国で長くブームを続け、衰えを見せないもつとも根本的な原因である。<sup>21</sup>

この評論からもわかるように、林少華は、中国での主な読者層は「都市に住む青年男女」だと指摘し、読者たちが精神面で村上文学に共鳴することを察知し、さらにこの特性が村上文学の人気の原因となっている、と指摘している。

「豆瓣」とは、文学や映画の愛好者が大勢集まる、非常に人気のあるサイトである。「豆瓣」の掲示板では、まれに真剣な読みが見られる。次に一例を挙げて見よう。

#### ①【原文】

『奇鳥形状録』：井，青痣与拧发条鸟 2010年05月23日 22:02:36

(前略)这两个意象，将1930年代的满洲、外蒙和1980年代的日本连接起来。将往事从历史的灰尘堆里拨拉了出来。历史是不能被忘记的。它又出现在人们的生活里，甚至连形式都充满了巧合。也许不这样写，就无法提醒人们历史不能被忘记。历史总是惊人的巧合，一再重复的发生。这是我们从冈田的故事中感受到的。(後略)<sup>22</sup>

#### 【訳文】

『ねじまき鳥クロニクル』：井戸と痣とねじまき鳥

(前略)この二つの表象は1930年代の満洲とモンゴルを1980年代の日本につなげている。かつての出来事を歴史の塵埃から引っ張り出している。歴史は忘却されるべきではない。それは再び人々の生活に現れ、形さえ偶然性に満ちている。このように書かないと、歴史が忘却されるべきではないことをリマインドすることもできなくなるだ

<sup>21</sup> 林少華「放談ざっくばらん 村上春樹は中国でなぜ読まれるのか」『人民中国』(2001年10月号)  
<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/fangtan/200110.htm>、2014年9月29日確認。

<sup>22</sup> <http://book.douban.com/review/3290528/> 2013年9月24日確認。

ろう。歴史の出来事はいつも偶然に一致し、反復する。これは私が岡田の物語から感じたものである。

この書評は、「歴史は忘却されるべきではないことをリマインドする」と解説し、『ねじまき鳥クロニクル』における「記憶」の描写の意味に共鳴する。ところが、このような読み方は、一般読者のなかではかなり少数であり、「歴史」を大きく取り扱った『ねじまき鳥クロニクル』についても、「歴史」に注目しない読み方のほうが多数である。次に「歴史」に注目しない、あるいは注目する気のない感想の例を挙げる。

また、2014年10月28日の時点で、『新浪微博』で「奇鳥行状録」（『ねじまき鳥クロニクル』）をキーワードとして検索すると、10326本の「評」が出ている。それとは対照的に、「挪威森林」（『ノルウェイの森』）をキーワードとして検索すると、420354本の短い評論やつぶやきが出ている。村上文学の注目度を事実通りに反映し、あえて数量的に言えば、40倍の差が見られる。次に特徴的な評論を取り出して、分析する。なお、個人情報尊重のため、ユーザ名は省略した。

#### ①【原文】

村上之所以无法感动诺奖评委，或许是因为他尚未有他们偏好的“大时代”、“史诗式”的大气作品吧？其实『1Q84』『海边的卡夫卡』『发条鸟年代记』等都有看似不经意的重要历史、社会背景的植入，但被他的村上式琐碎描写和各种令人困惑的暗喻几乎淹没了，小说一如他笔下的主角，努力地平淡和迷惘着…（2012年10月27 21:11）

#### 【訳文】

村上がノーベル賞の選考委員を感動させなかったのは、彼の作品群には彼等の好む「大きな時代」、「叙事詩的」な大作がないからではないか？実は、『1Q84』、『海辺のカフカ』、『ねじまき鳥クロニクル』などにはすべて、無意識に重要な歴史と社会背景が移入されているように見える。しかし、それは村上式の煩わしい描写と種々の人を困惑させる暗喻に埋もれてしまっている。小説は作中の主人公と同じように、懸命に淡々として困惑している……

この読者は『1Q84』、『海辺のカフカ』、『ねじまき鳥クロニクル』の社会性に注目しているものの、暗喩の難解さを否定的に見ている。

## ②【原文】

看到09年杂志的谋篇文章，让我联想到我最喜欢的两个作家村上春树和余华，他们都有一段暴力的写作状态，村上春树的『发条鸟年代记』，余华的『梅花血案』、『现实一种』…比直接看到血腥的场面还让人战栗。（2013年2月23日 12:47）

## 【訳文】

2009年の雑誌のある文章を読んで、最も好きな二人の作家村上春樹と余華のことを思い出した。二人とも暴力的な創作の状態があった。村上春樹の『ねじまき鳥クロニクル』、余華の『梅花殺人事件』、『現実一種』……血なまぐさい場面を直接に見るよりも人を戦慄させる。

この読者は余華の作品を連想して、『ねじまき鳥クロニクル』における暴力の描写に注目している。

## ③【原文】

今天中午看完『奇鸟形状录』以后睡了一觉。醒来后还在回味小说的结尾。真希望笠原May能和冈田在一起，我太喜欢她了。天分这东西太让人嫉妒，村上春树能写出、甚至能想出来这种故事，我太惊叹了。这是他的最巅峰了—在我看来。（2010年7月24日 21:00）

## 【訳文】

今日の昼間に『ねじまき鳥クロニクル』を読み終わって、昼寝をした。目を覚まして、まだ結末を噛み締めていた。笠原メイと岡田は恋人同士になってほしい。私は本当に笠原メイのことが大好きだ。才能というものは人を嫉妬させるものだ。村上春樹がこんな物語を想像し、書き出したことに感嘆する。これは彼の最高傑作だ—私にとっては。

この読者は『ねじまき鳥クロニクル』が村上の最高傑作だと高く評価しているが、その理由を明言していない。この読者はやはり『ねじまき鳥クロニクル』を恋愛小説のように読もうとしており、笠原メイと岡田が恋人同士になることを期待している。このような読み方が生じた原因は、『ノルウェイの森』がもたらしたイメージの慣性であろう。

#### ④【原文】

『奇鳥形状録』野心很大，洋洋洒洒 60 多万字，超现实批判眼光，从行文结构、角色设置和长度各个方面都算是『1Q84』的原型，可惜我并非喜欢这本。在我看来，若把战争那条线拿掉会精简的多，叙述的罗嗦复杂减少了不少阅读了快感。村上春树的写法和视角比较主观，一直觉得他不适合写 30 万字以上的小说。(2012 年 7 月 31 日 10:56)

#### 【訳文】

『ねじまき鳥クロニクル』は野心的な作品だ。60 万字にもものぼり、超現実的で批判的な眼差しを持っている。構造面でも、登場人物の設定でも、長さでも、いずれも『1Q84』の原型となっている。ところが、私はこの作品を好まない。私の見るところでは、戦争という筋立てを取り除けばもっと簡潔になるだろう。くどくて複雑な叙述は読みの快さを減らしてしまっている。村上春樹の書き方や視点は主観的だから、彼は 30 万字以上の小説に向いていないとずっと思っている。

「戦争という筋立てを取り除けばもっと簡潔になるだろう」という記述から見れば、この読者は、戦争の記憶の描写に共鳴していない。実際にこの小説から戦争の要素を取り除けば、残りの物語は夫婦愛の小説になるし、男性の主人公と女性たちの出会いの物語になってしまうであろう。明らかに、この読者は、村上文学に対社会的意識を求めようとしていない。

#### ⑤【原文】

重读 #奇鸟形状录#，明显的头重脚轻，诺门坎及其后的西伯利亚集中营的段落很精彩，若把剖皮那一段细致的描写扩充一下，不知道能不能爆了『檀香刑』—冈田梦境中

の酒店总让我想起『闪灵』…其实我更喜欢村上云淡风轻的出世之感，这种担负起历史和社会责任的入世作品，固然让人敬重，但少了一些感觉…（2014年10月27日00:19）

### 【訳文】

『ねじまき鳥クロニクル』を再読して、明らかに「頭が重くて足が軽い」と感じる。ノモンハン及びシベリア強制収容所の描写は素晴らしい、もし皮剥の段落の緻密な描写を膨らませたら、『檀香刑』（引用者注：莫言の小説、日本語訳題『白檀の刑』）を越えるかどうかはわからないが。岡田の夢のなかのホテルは『シャイニング』（引用者注：スタンリー・キューブリックの映画、原作はスティーヴン・キングの小説）を連想させた…実は、私は世間から距離をとった雰囲気の方が好きで、このような歴史や社会責任を背負う社会関心の作品は、もちろん尊敬するけど、何か心に通じるものが少なくなってきた…

引用文からわかるように、この読者が期待しているのは、村上文学の対社会意識というより、むしろ、センチメンタルな雰囲気のようなものである。

村上文学におけるセンチメンタルな雰囲気、孤独感や喪失感に共鳴する若い読者が少なくない。彼らは、高度資本主義社会のライフスタイルに憧れており、村上文学の社会性を重視するのではなく、自らその社会性を排除しようという傾向すら見られる。それは、都市化が急速に進展し、社会構造が変化し続けるという発展段階に応じて生じた社会現象である。都市部の青年男女は、村上文学を「小資」のモデルとして受け止めて、村上文学を通して心の体験、治癒的な体験をする。劉研は「〈小資〉に耽っている村上の読者たちは、村上文学の豊富さを無視するのみではなく、村上文学の複雑性を自覚的に意識することもできない」<sup>23</sup>と読者受容の問題点を指摘している。中国の読者は『ノルウェイの森』で受け取った都会的な「小資文化」のイメージ、センチメンタルな雰囲気、孤独感等を村上春樹の文学像として保持し続けている傾向が見られる。従って、多くの読者の期待の地平には、そもそも『ねじまき鳥クロニクル』のような戦争や植民地の記憶は含まれていないと言える。

---

<sup>23</sup> 劉研「“小资”村上与中国大众文化语境」『中国文学研究』2012年第1期、p. 17。馮英華訳。原文：「浸淫“小资”村上的人们，不仅会忽略村上文学的丰富性，也很难自觉意识到村上文学的复杂性。」